

HTLV-1(ヒト Tリンパ球向性ウイルス1型)について

【はじめに】

HTLV-1 の検査結果を差し上げたところですが、HTLV-1 抗体陽性であることをはじめてお知りになられたことと思います。

この世の中にはたくさんのウイルスが存在し、身近なところではインフルエンザもウイルスによるものです。HTLV-1 は主にヒトの白血球(リンパ球)に感染するウイルスの一つで、Human T-Lymphotropic Virus type 1 :ヒト Tリンパ球向性ウイルス-1 型の略称です。このウイルスは、古くから人類と共存してきたもので、日本では九州を含む西日本に多いことが分かっています。エイズウイルス(HIV)とは全く関係がありません。

また、このウイルスに感染しているからといって発病するとは限りません。あなた様の疑問や不安を少しでも解消するためにこの資料を作成いたしました。お読みになって疑問や不安が解消されない場合は、赤十字血液センターに問い合わせ窓口を開設していますのでご遠慮なくご相談ください。

【 HTLV-1 の検査法 】

HTLV-1 感染によって作られる抗体を検査することでウイルスの存在を知ることができます。

検査法にはいくつかの種類があり、それぞれ長所と短所があるため、陽性の判定には 2~3 種類の方法を組み合わせる必要があります。日本赤十字社では献血された血液について CLEIA 法(化学発光酵素免疫測定法)でスクリーニングを行い、陽性になった場合には、WB(ウエスタンブロット法)で確認試験を行っています。

HTLV-1 抗体陽性となった場合は、HTLV-1 に感染し、ウイルスを保有している可能性が高く、そのような人をキャリアと言います。日本ではおよそ 120 万人の方がこのウイルスを保有していると推計されています。

【 HTLV-1 の感染力 】

HTLV-1 の感染力は極めて弱く、大量の生きたウイルス感染細胞(リンパ球)の移入がないと感染しません。しかも、このウイルス感染細胞は乾燥・熱・洗剤で簡単に死滅するため、水・衣類・食器・寝具・器具などを通して感染することはなく、蚊、銭湯でも感染しません。インフルエンザのようなクシャミ、咳などによる飛沫感染もありません。

従って、授乳・性交渉を除く普通の生活での家族感染や職場での感染、さらに歯の治療・はり治療・理髪などによる感染もありません。特別な配慮は必要ありません。

【 HTLV-1 の感染経路 】

HTLV-1 の感染はウイルス保有者(キャリア)から生きたウイルス感染細胞(リンパ球)が体内に入ることでおこります。感染経路としては、次の三つがあります。

1. 母子感染
2. 性交渉感染
3. 輸血による感染

輸血による感染は、HTLV-1 抗体検査により、ほぼ 100%阻止されており、主な感染経路は母子感染と性交渉(主に夫→妻)です。

【 母子(乳)感染について 】

母子感染は経胎盤感染もありますが、母乳のリンパ球による感染が大部分で、最近のデータでは長期授乳による母子感染は約 20%程度と言われています。しかし、断乳により大部分の感染の防止が可能です。

また、母乳も凍結融解処理をすれば感染力は低下します。断乳の方法も報告者によって差がありますが、初乳からの断乳・短期授乳後の断乳があります。詳しい断乳の方法については、妊娠時に産科医にご相談ください。母子感染での予防が続けば、若年者の HTLV-1 キャリアは、今後も減少すると思われます。

【 夫婦感染について 】

性行為の場合は、精液中のリンパ球がウイルスを運びますので、主に夫から妻に感染します。夫婦間の性交渉での感染は 10 年間で HTLV-1 抗体陽性の妻から夫へは極めてまれ(0.4%)であり、同じく HTLV-1 抗体陽性の夫から妻へは 60%でした。妻に感染しても子供への感染は上述のように防止可能です。また、性交渉感染はコンドームを使用することで感染防止が可能です。しかも、成人してからの感染の場合、ATL(関連疾患の一つ、次項目参照)の発症についての報告はありません。

【 HTLV-1 関連疾患 】

HTLV-1 関連疾患 (HTLV-1 感染に伴って起こることのある疾患) は、以下の通りです。

1. ATL (成人 T 細胞白血病 : リンパ球の一種である T 細胞が腫瘍化する疾患)
2. HAM (HTLV-1 関連脊髄症 : 歩行障害や排尿障害を引き起こす脊髄疾患)
3. ブドウ膜炎 (眼球内のブドウ膜の炎症で、視力障害を引き起こす疾患)
4. その他 (関節炎、気管支炎)

【 関連疾患の発生頻度 】

抗体陽性者からの成人 T 細胞白血病 (ATL) の発症は極めて低く、40 歳以上の抗体陽性者で年間 1,000 人に 1 人の割合と言われていています。これは、1 日に 20 本の紙巻きタバコを 20 歳から吸い続け、生涯に肺ガンで死亡する確率の 5 分の 1 以下と推定されています。

一方、HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) の発生率は ATL より低く、抗体陽性者で年間 3 万人に 1 人と推定されています。また、HAM は治療法が次第に確立されつつあります。

いずれにしても発症するのはウイルス保有者 (キャリア) の方のごく一部であり、また感染しても直ちに発症するわけではありません。ほとんどのキャリアの方は生涯、関連疾患を発症することなく過ごしておられます。

【 ATL の症状 】

ATL では主に以下のような症状がでます。

1. 持続的な痛みを伴わないリンパ節の腫大 (腫れ)
2. 難治性の多発する皮膚病変又は皮下腫瘍

40 歳以上の方でこのような症状がでたら最寄りの医療機関 (血液内科のある病院) の受診が必要です。

【 HAM の症状 】

HAM では主に以下のような症状がでます。

1. 歩行障害
2. 排尿、排便障害
3. 下肢の脱力感

このような症状がでたら最寄りの医療機関 (神経内科のある病院) の受診が必要です。

【 検査の実施と通知について 】

輸血用血液に対する HTLV-1 抗体の検査は 1986 年 11 月から行っており、それ以降、輸血による感染の報告はなくなっています。

また、以前は、国 (厚生労働省) の方針で通知をしておりませんでした。次のような理由から、希望する人には通知するという方針が中央薬事審議会から出され、平成 11 年 12 月から通知を開始しました。

1. HTLV-1 抗体陽性の血液の有効利用について検討が重ねられ、血漿を保管しておりましたが、HTLV-1 抗体陽性血漿の分画製剤への利用は、安全性の点から行わないこととされ、献血者の善意をいかせなくなったこと。
2. 陽性通知を受けた方の精神的負担が懸念され、結果をお知らせすることの是非が検討されてきましたが、学問の進歩で HTLV-1 や関連疾患などの解明が進み、HTLV-1 が病気を引き起こすことはあまりないことがわかったこと。
3. 情報公開の時期にあること。